

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

河原に入り、野尻へ向かうか竹田へと向かうかの通過点にすぎなかったこの地点、今、車を降りて野尻方向に歩き、橋を渡り最初の辻を右折する。

すぐに狭い石段があり、そこを登るとお堂へ到る。このお堂から見える豪壮な家々に、往時河原がもった豊かさを、垣間見ることが出来ます。

そのお堂内部には、神仏混合の宝物が納められ、その外側には棺桶を運んだ木杵が置かれています。暫く前までは、このお堂は冠婚葬祭には欠く事が出来なかった場所であり、人々の心のよりどころであったのでしょう。

江戸時代末期文久元年に寄進したと書かれており、このお堂ができた頃、周囲の宝物も一緒に奉納されたのでしょうか。

いつも車で通過していた河原。車を降りて歩くと色々な出会いがあります。お堂から見る河原は、窪地にあり周

囲を大杉で囲まれているその景観は、さしこめる陽光が屋根瓦を照らすさまは、高森ではなく何処か遠くの旅先で出会える、そんな景色の広がりを感じます。そして四方の山々には、風おさめの神様が奉られています。

立派なつくりの家々、そして門構。若者に出会える機会が少なくなつて来



▲河原小学校跡

たことに、寂しさを感じます。

河原にはかつて神楽がありました。

衣装からお面も全部残っており、大切に保存されています。戦後まもなくして舞う人達もいなくなつてしまいました。子供の頃にしか見た事がないと、そして今となつてはどうしようもないと老人が語りました。

河原の北手、集落を上り詰めると熊野座神社の参道にさしかかります。その参道に立ちながめると、眼前には高冷地野菜の生産基地と言える広い畑に、キャベツが植えられています。本来熊野座神社は水田地帯には無く、林業を主とし、狩猟の民のお社でした。

高森町に熊野座神社は四社あります。上色見、色見、下切に此処河原です。

いずれも紀州熊野が発祥地で、熊野信仰の特長と言える社の位置は、水田地帯には少なく、畑作地帯すなわち山間部に多く存在します。熊野三山の地理的条件によるものなのでしょう。

熊野座神社前に農免道路が開通し、すでに廃校になった河原小・中学校跡をかすめるかのように走っています。その農免道路に接するかのように校門

が立っています。廃校となつてすでに十余年がすぎました。いつも手入れがいきとどき雑草などありません。

小学校跡と体育館が残り、もう暫くは誰も入っていないだろうと思える校舎に、ただただこのまま朽ちらせてしまふには、あまりにも愛おしさが漂います。

農免道路の反対側の通路、かつてはこの道が正式な学校への通学路だったのですが、今は通る人として少なくなりました。その方向から学校に入つてすぐの所から土器類の出土がありました。縄文から弥生時代にかけてのものらしいのですが、この地に居を構えた古代の人々。狩猟を糧に生きた青年達の姿が彷彿として現れます。

河原を過ぎ左折すると、味鳥集落に至ります。河原よりやや高台に位置し、豊後との繋がりが深く国境線の問題も度々起こしました。その境観とは単なる領土欲ではなく、人と人の交流によるもの。それは隣接する旧萩町に、「味鳥」の字名がつく集落があります。